

2014.12.5

2014 年を振り返る 厳しい内外情勢

2014 年、世界で戦火が広がり、エボラ出血熱がもうい猛威を振るう。国内の景気は悪化。ソチ冬季オリンピック・パラリンピック、サッカーW杯ブラジル大会の開催もかすんでしまいそうだ。



「慰安婦」問題で孤立

NHK 経営委員会（安倍首相が任命）で任命された舛井勝人NHK会長は1月、就任記者会見で日本軍の「慰安婦」をめぐる「戦争をしているどこの国にもあった」などと発言し、大問題となる。

また「慰安婦を強制連行した」とする吉田証言を朝日新聞が8月に取り消したことに乗じて、右派メディアと靖国派勢力が異常な「朝日」バッシング、歴史歪曲^{わいきょく}を展開。安倍首相も「日本が国ぐるみで性奴隷にしたと、いわれなき中傷が世界で行われている」と発言し（10月3日の衆院予算委）、性奴隷制という本質を事実上否定した。

国連人種差別撤廃委員会が8月、日本政府に対し、ヘイトスピーチへの毅然とした対処、「慰安婦」問題の調査や謝罪・補償を勧告した。

歴史の歪曲は、韓国や中国との関係を冷え込ませ、日本の国際的な孤立を招く。

内外の災禍

8月20日、広島市内の記録的豪雨による土砂災害で74人が亡くなった。

9月27日、長野・岐阜県にまたがる御嶽山が噴火し、登山者ら56人が死亡、7人が行方不明（10月16日現在）、戦後最悪の火山災害となった。

4月16日、韓国南西部の珍島沖で修学旅行生ら約460人が乗った旅客船セウォル号が沈没、死者295人、行方不明9人（10月28日現在）。



エボラ出血熱が西アフリカで感染が拡大。10月末現在で感染者は世界で1万3千人超にのぼる。10月末、キューバのハバナで予防と対策を協議する国際会議が開催された。

激化する紛争

ウクライナ東部で4月、親ロシア派武装勢力とウクライナ軍の戦闘が始まる。その中で7月17日、マレーシア航空旅客機がドネツク州内に墜落。9月5日の停戦合意後も散発的な戦闘が続く。

スンニ派過激派組織が6月、イラク北部のモスルを制圧し29日、一方的に「イスラム国」樹立を宣言。シリアにも攻撃を拡大。米国は「イスラム国」打倒のため、イラク国内に限定していた空爆を9月22日、シリアにも拡大した。

7月8日、イスラエル軍がパレスチナ自治区ガザへの空爆を開始し、イスラム武装抵抗組織ハマスとの戦闘激化。8月26日の停戦までに2,100人以上のパレスチナ人が命を奪われた。

ノーベル平和賞

ノーベル平和賞に、女性の教育権を訴えてタリバンに銃撃されたパキスタンの教育活動家マララさんと、インドの児童権利擁護活動家サティアルティ氏が決まった。

武器輸出を解禁し死の商人に

安倍内閣は4月1日、武器輸出を解禁する「防衛装備移転三原則」を閣議決定。憲法に則って武器輸出を原則禁止した武器輸出三原則を撤廃した。7月、閣議決定後初の武器輸出（米国）を許可。安倍首相の「地球儀外交」に加え、武器の売り込みに力を入れる。



迷惑な輸出

悪政にピリオド打って 希望あふれる年に